



# RBN™ 112

パワードスピーカーシステム



ユーザー  
マニュアル



### FCC/ICES Compliancy Statement

This device complies with Part 15 of the FCC rules and Industry Canada license-exempt RSS Standard(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, that may cause undesired operation.

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes: (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

**Warning:** Changes or modifications to the equipment not approved by Peavey Electronics Corp. can void the user's authority to use the equipment.

**Note –** This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures.

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

### Caution

The equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment.



## 日本語

はじめに

**Peavey® RBN™112** パワードスピーカーシステムをお買い上げいただきありがとうございます。RBN™112 はウーファーにて **1000W** ピーク、リボンドライバーツイーターにて **500W** ピークを出力可能なバイアンプのパワーセクションを搭載しており、どちらのアンプにも **DDT™** 圧縮技術を採用しています。**12** インチのネオジムデュアルボイスコイルを備えた **Scorpion®** ウーファーと、真のリボンドライバードライバーである **RD™2.6** を内蔵した **RBN™112** は、2つの独立したミックス入力チャンネルを提供します。各チャンネルにはゲイン調整機能、マイク/ラインゲイン選択スイッチ、1/4 インチ **TRS/XLR** メスプラグに対応したコンボジャック、音量調整機能付きのバランス入力が備わっています。**DSP** を使用したクロスオーバー機能とプロセッサ機能を通じ、設置場所における一般的な音響効果に対処するユーザーへ非常に柔軟なツールを提供します。

特徴

- バイアンプパワードスピーカーシステム
- ウーファー出力は **1000W** ピーク、ツイーター出力は **500W** ピークが可能
- 両パワーアンプに **DDT** 圧縮技術を搭載
- **12** インチのネオジムデュアルボイスコイルを備える **Scorpion®**ウーファー
- 低カラーレションの導波路を持つ **Peavey RD™ 2.6** リボンドライバーツイーター
- 音楽再生時のピーク **SPL** は最大 **130dB**
- **DSP** を利用したクロスオーバー、リミッター、イコライザー機能
- ロータリーエンコーダーとプッシュボタンを用いてイコライザーのプリセットを選択可能
- ロータリーエンコーダーとプッシュボタンを通じて**9**バンドイコライザーおよびその他のシステム設定を選択可能
- ダイナミックバスブースト機能
- 最大 **150ms** の構造遅延
- 信頼性を最大限に高める冷却ファン
- ゲイン調整機能およびマイク/ラインゲイン選択スイッチを搭載した、2つの独立したミックス入力チャンネル
- 各チャンネルにおいて **1/4** インチ **TRS/XLR** メスプラグのバランス入力に対応したコンボジャックを採用
- 入力チャンネル **2** には **3.5 mm** ステレオ入力メディアジャックを搭載
- 出力コネクタは **XLR** オスプラグを採用
- 右側面および上面背部にフルサイズのハンドルを装備
- 保護クロスを裏打ちしたフルサイズのパンチングスチールグリル
- 堅牢設計のポリプロピレン成形型エンクロージャ
- ポールマウント内蔵

- 軽量化実現：わずか 17.7kg
- VM™ 70 マウンティングブラケットに結合するフライングポイント挿入グループを上部と下部に装備

## 概要

Peavey® RBN™112 はバイアンプの 2Way パワードスピーカーです。コンパクトなパワードスピーカーながら、高パフォーマンスを達成可能なシステム設計が施されています。この 2Way パワードシステムは 1000W ピークのスイッチングパワーアンプで構成されており、ネオジム磁石を用いた 12 インチのデュアルボイスコイルを備える Scorpion®ウーファーを駆動します。真のリボンツイーター、RD™2.6 は 500W ピークのスイッチングパワーアンプで駆動され、低カラーレションを達成する導波路に加え、水平方向に 110 度、垂直方向に 30 度の指向性を確保します。

RBN™112 は最大 130dB のピーク SPL を誇ります。エンクロージャは堅牢な高性能プラスチックを成形版の台形に射出成型しており、フルサイズの塗装済パンチングスチールグリルを施すことで、魅力的な外観を保ちつつも耐久性のあるパワードスピーカーシステムを構成しています。キャビネットおよびグリルは黒色です。

2 つの独立したミックス入力チャンネルは、それぞれプリアンプ/イコライザー部へバランス入力とレベル調整機能を提供します。各チャンネルは XLR メスプラグと 1/4 インチ TRS フォンジャックのコンボジャックを備えています。マイクレベルとラインレベルの間で感度を切り替えることが可能であり、チャンネル 2 には 3.5mm メディアジャックが追加されています。ライン出力部には XLR オスプラグが採用されています。スルー出力を用いて別のスピーカーシステムと連結したり、音声信号をパワードサブウーファーへ送るなどの構成が可能になります。

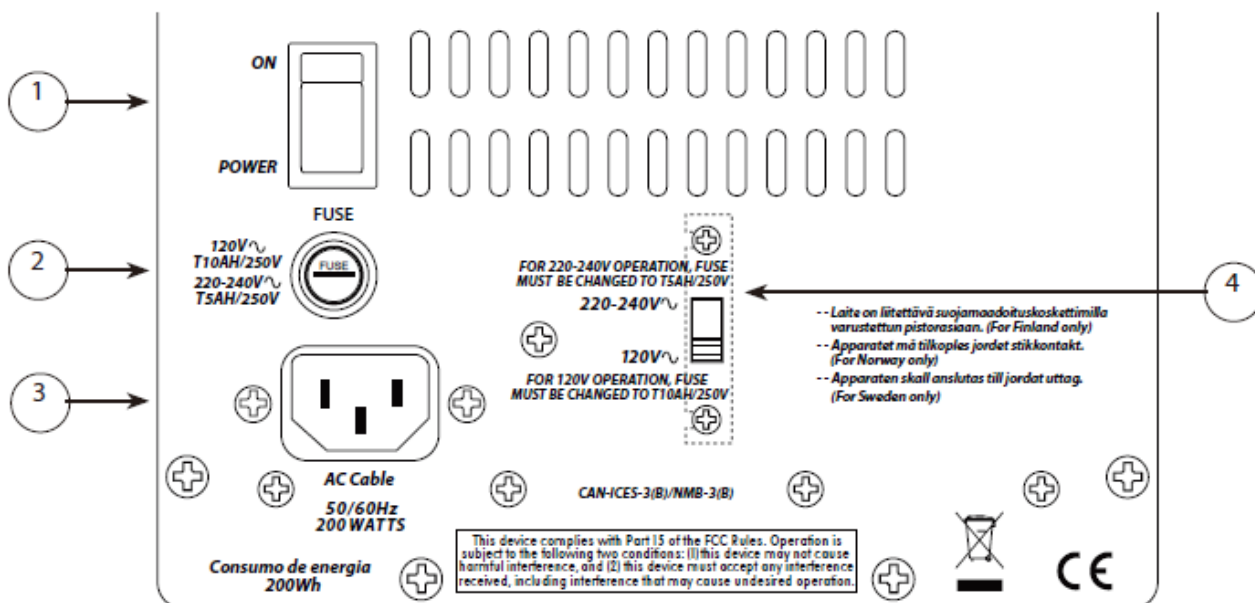
バイアンプを駆動するパワーアンプは 1000W ピーク出力を公称 4Ω 負荷のウーファーへ、500W ピーク出力を公称 8Ω 負荷のツイーターへ供給可能な低歪率スイッチングユニットです。両アンプの電源は、軽量かつ高効率のスイッチングモード方式を採用しています。当社の DDT™圧縮技術が両アンプに搭載されており、可聴域のパワーアンプ出力クリップをほぼ完全に消去します。冷却は強制的な空気循環を通じて行われています。右側面および背面上部にフルサイズのハンドルを据付けて可搬性を強化しており、Peavey VM™ 70 マウンティングブラケット用のマウントポイントを搭載して可用性を最大限に高めています。

リボンツイーター付きのネオジム磁石ウーファーに DSP を通じたクロスオーバーとイコライザー機能を組み合わせ、既存のパワードエンクロージャをはるかに凌駕する明瞭さとインパクトをもたらします。スイッチングパワーアンプとスイッチモード電源、およびドライバー上のネオジム磁石システムなど、高水準の先端技術を非常に軽量かつお求めやすい価格で提供しています。

## アプリケーション

Peavey® RBN™112 は音質強化、場内放送、カラオケシステム、あるいは音楽再生など、幅広いアプリケーションにて利用できます。

Peavey RBN™112 の代表的なライン入力ソースとしては、音質強化用ミキシングコンソール（ミキサー）あるいは CD プレーヤー/MP3 プレーヤー/テープデッキの出力などが挙げられます。ダイナミックマイクを直接接続して用いることも可能です。



### オン→オフスイッチ (1)

このロッカースイッチを ON の位置に切り替えると、AC 電源が RBN™112 に供給されます。スイッチの上部を押し込むか、リアパネルとほぼ同一の平面に達するまで押すと、ON となります。

### ⚡ ヒューズ (2)

過負荷や障害から製品を保護するために、AC 電源線には 5 x 20mm、250V の低速溶断ヒューズが組み込まれています。ヒューズはヒューズホルダーのキャップを取り外すと出現します。保証を無効にせず、機器を保護するため、ヒューズが切れた場合は同一のタイプおよび定格のものと交換してください。

RBN™112 内のヒューズは、5 x 20 mm、250V 定格の時間遅延ヒューズと交換可能です。

120VAC で駆動する場合、10A 定格のヒューズを用いてください。米国においては、GDC、GMC、215、218、477 の各カートリッジ、5 x 20 mm サイズ、10A、250V 定格のヒューズを用いることが可能です。

220-240VAC で駆動する場合、国際分類にて「T5AH」に属する 5A/250V ヒューズを用いてください。

交換したヒューズが切れ続けるようであれば、交換を中止し、認定サービスセンターへ修理を依頼してください。ヒューズ交換の際には、IEC 電源ソケットから IEC 電源コードを引き抜いてください。

### ⚡ IEC 電源コードの接続 (3)

このソケットへは、機器に AC 電源を供給する IEC 電源コード（製品に付属）を接続します。RBN™112 に適切な AC 電源電圧が供給されているかどうか、必ず確かめてください。機器のリアパネルに取付けられている電圧選択スイッチ (4)を用いて、RBN™112 の電源電圧を選べます。

人体、および機器の安全を確保するために、本マニュアルの記載事項を丁寧にお読みください。機器のアースピンは絶対に外さないでください。安全確保のために必要です。コンセントにアースピンが備えられていない場合、接地用アダプタを使用し、アース線を適切に接地させてください。感電や火災を防ぐために、ミキサーやその他の関連機材は全て、確実に接地させてください。

#### 電圧選択スイッチ (4)

RBN™112 は入力電圧を 120VAC および 220VAC～240VAC の間で切り替えられるスイッチを備えています。いずれの電圧も、50Hz/60Hz の両方に対応しています。パッケージ開封時には、お住いの地域の規格に対応した電圧が既に選択されているはずですが、しかし、周辺地域の標準電圧とは異なる電圧値を採用している地域も局所的に存在しているのが、世界の实情です。

お住いの地域で用いられている電源電圧に、電圧選択スイッチの位置が合致しているかどうか、必ず確かめてください。合致していない場合、次の手順に従って正しい値を選択してください。

#### RBN™112 電源電圧の切替

まず、RBN™112 を電源線から切り離れた後、電源スイッチ (1) を OFF の位置に切り替えます。

次に、電圧選択スイッチ (4) の透明スイッチ保護パネルが回転させられるよう、パネルのネジを緩めます。ネジは少し緩めるだけで十分です。

さらに、透明プラスチックのパネルを約 90 度回転させて、電圧選択スイッチを露出させます。カバーの一端にはスロットが空けられており、もう一端には穴が空けられています。穴が空けられている側を支点として回転させます。

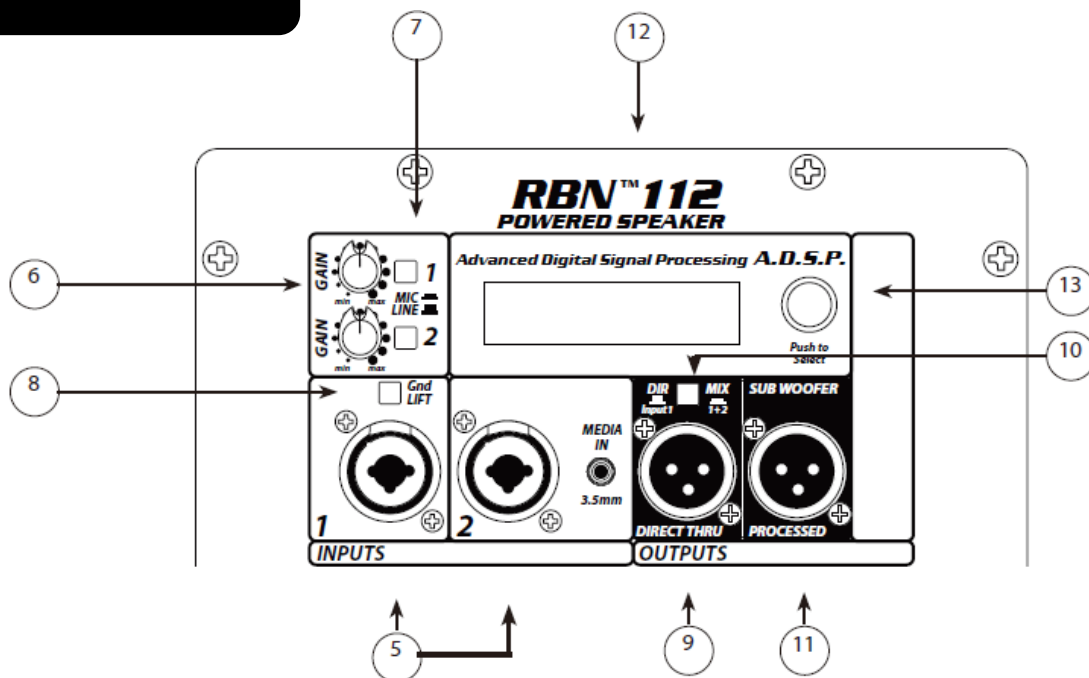
次に、小型のマイナスドライバーを使用して、赤色の選択スイッチプレートを元の場所から反対側へスライドさせます。赤色のスイッチプレートが位置している側の電圧が、選択されます。透明プラスチックの保護カバーを元の位置まで回転させ、カバーを押さえて固定させ、一方のネジを締めます。もう一方のネジも締め、どちらのネジも固く締まっているかどうか確認してください。

ネジを固く締めすぎると、電圧選択スイッチの透明プラスチックカバーを損傷します。力を入れ過ぎないでください。

最後に、ヒューズを適切な電流規格のものと交換してください。120VAC 電源電圧の場合は 10A 定格、250V、5x20 mm カートリッジの時間遅延ヒューズ（国際ヒューズ分類にて「T10AH」に属します）を使用してください。

220VAC～240VAC 電源電圧の場合は 5A 定格、250V、5x20 mm カートリッジの時間遅延ヒューズ（国際ヒューズ分類にて「T5AH」に属します）を使用してください。

お住いの地域に適合した IEC 電源コードを IEC 電源ソケット(3)に接続し、電源スイッチ(1)をオンにして RBN™112 パワードスピーカーシステムを作動させます。



## 入力 (5)

入力チャンネルは2つ存在します。ライン入力はミディアムの入力インピーダンスを持つバランスタイプです。ジャックはXLR メスプラグと 1/4 インチ TRS コネクタのコンボです。入力感度は、MIC/LINE (マイク/ライン) 選択スイッチ(7)を LINE (ライン) に合わせた状態で、フル出力にて 0.42V です。チャンネル 2 はモバイル機器を信号ソースとして用いる場合に備えて、3.5mm ジャックを備えています。

## CH1 と CH2 の両方に GAIN (ゲイン) 調整(6)を搭載

対応する番号の入力チャンネルのゲインあるいは出力レベルを調整します。入力信号のシステム出力レベルを直接調整できます。

## CH1 と CH2 の両方に MIC/LINE (マイク/ライン) 選択スイッチ(7)を搭載

LINE (ライン) レベルのゲイン (突き出た状態) と MIKE (マイク) レベルのゲイン (押し込まれた状態) を切り替えます。MIC (マイク) レベルではゲインが 26dB 増幅され、ほとんどのダイナミックマイクが使用可能となります。

注意：入力ジャック(5)にファンタム電源は供給されません。

## Gnd LIFT (グラウンドリフト) スイッチ(8)

シールドをシャーシグラウンドから切り離し、グラウンドループによるハムノイズを軽減します。

## DIRECT THRU (ダイレクトスルー) 出力ジャック(9)

このジャックは複数の RBN™ 112 を直列に接続したり、パワードサブウーファーやフルレンジで入力信号を受け取る必要のある機器へ出力信号を送るために使用します。

## DIR/MIX (ダイレクト/ミックス) 選択スイッチ(10)

Direct Thru (ダイレクトスルー) 出力(9)の信号を、チャンネル 1 入力のダイレクトスルー出力、あるいはチャンネル 1 と 2 のミックス信号のどちらかから選べます。

## SUB WOOFER PROCESSED (サブウーファー用) 出力ジャック(11)



RBN™215 または 118 以外のパワードサブウーファースピーカーへ送るための、フィルタリング済信号を出力します。Push-To-Select (プッシュ選択) スイッチを用いて LCD 画面上で RBN™112 の Setup Wizard (設定ウィザード) に従い、サブウーファーとその接続を適切に行ってください。

## リアパネル上段

### LCD 画面(12)


メニュー内容を表示し、Push-To-Select (プッシュ選択) スイッチ(13)を用いて起動し、操作できます。

### Push-To-Select (プッシュ選択) ボタン(13)

LCD 画面(12)のメニュー項目を選択して確定するためのロータリーノブです。クリックするまでボタンを押し込むと、LCD 画面に表示されるメニュー項目を選択したり、動作やオプションを確定します。

## 危険

### 警告

 機器の修理を行う前に、必ず AC 電源を外してください。修理は全て、認定されたサービス技術者に依頼してください。

背面プレートは火傷を伴う高熱に達する場合があります。冷却ファンや排気用ルーバーを塞いだり、覆って換気を妨げてはなりません。冷却ファンの背後には少なくとも 10cm の隙間を設けてください。カーテン、布地、断熱用建材などの障害物で換気を妨げないでください。RBN™112 の背面は、密閉した空間や、新鮮な冷却用空気が得られない場所に晒さないことを推奨いたします。

大音量のフィードバック音を避けるため、マイクを入力に接続したり、マイクの音量を調整する際は、スピーカーの前面に置かないでください。この場合、システムに損傷を与えることとなります。

RBN™112 の入力パワーアンプの出力に**絶対に**接続しないでください。スピーカーの入力はラインレベルの信号強度に耐えられるよう設計されています。

保護用金属グリルを**絶対に**外さないでください。

危険！RBN™112 は非常に高効率で強力な出力を持ちます。このサウンドシステムは聴力を恒久的に損傷することもあり得ます。最大出力を設定する際は、細心の注意を払ってください。

RBN™112 の出力は明瞭で遠くまでわたるため、感覚的な音量は実際のものと異なる場合があります。歪みや音割れがないため、音量が実際の値よりも低く聞こえる可能性があります。このシステムは、スピーカーから 1m の距離にて 130dB を超える SPL を出力可能であることを忘れないでください。

### フライング/リギングに関する情報

警告：本スピーカーを吊り下げる前に、認定された構造技術者の助言を仰いでください。吊り下げが適切に行われない場合、スピーカーが落下して深刻な怪我や物損を引き起こす可能性が



あります。本スピーカーのエンクロージャには他の製品や機器を取り付けたり、吊り下げたりしてはなりません。エンクロージャの最大角度は 30 度です。完全に合致するハードウェアのみを用いて吊り下げてください。関連リギング作業は全てメーカーの責任対象外です。

可能であれば、通常用いている取付け方法に加え、適切な安全チェーンやワイヤーロープをサイドハンドルに通すか、他の挿入グループに取付け、認定された構造技術者が指定した適切な構造部材にしっかりと固定してください。ボルトが振動で緩む事態を防止するために、挿入箇所

のボルトにはスレッドロッカーを用いることを推奨いたします。

アレイブラケットやその他の取付け用ブラケットを構造部材として用いて搬送することは絶対に避けてください。キャビネットはアレイブラケットやその他のマウントブラケットに取付けられる以外には支持材を持たないことになり、マウント用挿入孔に過度なストレスがかかります。

危険！（構造技術者への注意事項）

注意：RBN™112 のフライポイント・プレート挿入孔のネジはマウンティングポイントの孔に差し込むことのみを目的としており、固定やフライングの目的に使用することは避けてください。マウンティングポイントの挿入孔には適切な種類と定格のボルトを使用してください。正しいマウンティングボルト径およびスレッド間隔は次の通りです：M6、スレッド毎に 1.0mm。グレード 8.8 あるいはそれ以上のメトリックボルトが推奨されます。

各マウントプレートの挿入ポイントグループ中央にある小径のネジ 2 つは、マウントプレートの保持用ネジであり、挿入マウントプレートや、フライングポイントとして利用されている箇所から取り外さないでください。これらの箇所には M6 挿入ポイントは存在しません。

RBN™112 のマウント挿入は Peavey® VM70 マウントブラケット(03011050)および Peavey Impulse® 12 インチアレイブラケット(黒色 00386920、白色：00386940)と 4 つ一組で使用するために設計されています。RBN™112 は Peavey®壁掛けスピーカースタンド(黒色：00922940)と組み合わせることも可能であり、この際はキャビネット下部に組み込まれたマウントカップに結合させます。

VM70 に付属する標準ハードウェアはメトリックではありません。適切なグレードを維持するためには、追加でメトリックボルトを用いる必要があります。

RBN™112 のフライング／リギング用ハードウェア

アイボルトやブラケットボルトは、スレッド間隔が 1.0mm の M6 メトリックスレッドボルトを使用してください。

安全確保のため、アイボルトやブラケットボルトは規定最小強度に準拠する必要があります。

一般のハードウェア小売店で入手可能な規格未準拠のアイボルトは、高度のあるフライングやリギングにおいて安全を確保するために必要な強度を備えていません。リギング目的に設計され、以下の規格に準拠した鍛鋼製の機械用ショルダーアイボルトのみを使用してください。

ハードウェア仕様

鍛鋼製の機械用ショルダーアイボルトのサイズは M6、スレッド間隔は 1.0mm、準拠規格は DIN 580 または ASTM A489 です（ドイツでは、BGV-C1 が関連規格となります）。最小シャンク長は 20mm です。アイボルトは少なくとも 204kg の引張荷重定格を持つ必要があります。

カスタム仕様のマウンティングブラケットに使用するボルトは、グレード 8.8 またはそれ以上に適合したメトリックボルトを使用する必要があります。

Peavey RBN™112 のフライングおよびリギングに関する適切なハードウェア取り扱い方法についてご質問がおありの場合は、認定された構造技術者に問い合わせるか、訓練を受けて認定された技術者を擁するリギング業者にお問合せください。

### **RBN™112 への AC 電源の接続**

RBN™112 には約 180cm の IEC 規格 AC 電源コードが付属しています。本パワードスピーカーの電源線に延長コードやテーブルタップを使用している場合、必ず高品質で十分な電流容量を持つものを使用し、安全を確保し RBN™112 の出力を最大限に引き出せるようにしてください。出力歪みを可能な限り抑えるため、RBN™112 が接続されている延長コードには他の機器を接続しないでください。延長コードに接続される機器の定格電流合計が、コードの定格電流を超えないようにしてください。

AC 電源コードを初めて接続する前に、電源スイッチをオフにしてください。電源コードが接続された後初めて、スイッチをオンにします。手順を正しく踏むと、内蔵のミュート機能が作動します。

### **RBN™112 のスピーカースタンドへの取付け**

RBN™112 には標準のマウントカップが既に成形されており、スピーカーシステムを標準の 36mm 径スタンドポールに取付けられます。

スタンドまたはポールを用いる場合、以下の注意事項を必ず守ってください：

- A. スタンドまたはポールの仕様が RBN™112 の重量 (17.7kg) に耐えられることを確認し、スタンドの最大高など、スタンドメーカーにより規定される全ての安全注意事項を遵守してください。
- B. スタンドは必ず均一で平坦、安定した表面に置き、スタンド脚はメーカーの指示に従い、最大幅に広げてください。
- C. スタンドの付近にいる人々が可能な限り躓かない方向に、スタンド脚を伸ばしてください。絶対にスタンド脚がドアや廊下を塞がないようにしてください。
- D. ケーブルを配線する際は、人が足を取られたり、スピーカーを倒すことのないようにしてください。粘着テープ、ケーブルチャンネルやケーブルガード、あるいはその他の適切な固定/カバー用ツールを注意深く選定し、使用してください。
- E. スピーカーをスタンドへ取り付け/取り外しする際、もう一人の方にサポートを依頼することを推奨いたします。RBN™112 を身近に支えながら、スタンドカップとスタンドポールの細い取付部分を取り扱うのは困難を伴います。また、RBN™112 をスタンドポールから取り外す際、もう一人の方にスピーカースタンドとポールを押さえていただくと、RBN™112 がポールを一緒に引き上げる事態を防げます。
- F. スタンドを屋外で使用する場合、バナーやフラグをスタンドや RBN™112 へ絶対に取付けしないでください。強風が発生した際、スピーカーが倒れる原因となります。風の勢いが強い場合、RBN™112 スピーカーシステムが倒されないように、念のためにスタンド脚に重りを載せたり、地面に固定することも考慮してください。

### **RBN™112 と RBN™215 Sub または RBN™118 Sub の接続**

RBN™215 Sub あるいは RBN™118 Sub は、サブウーファーに付属する 36mm 径ねじ付きポールを用いて RBN™112 に取付けることが可能です。RBN™112 をスピーカースタンドと組み合わせる際の注意事項は全て、RBN™112 を RBN™215 Sub あるいは RBN™118 Sub に接続する際に適用されます。これら注意事項は主に B、D、E、F 項に記載されています。

## **RBN™112** への音声信号の接続

**RBN™112** に信号を入力する方法は多岐に渡ります。

入力(5)はバランス型のマイクレベル／ラインレベル入力信号に対応しており、1/4 インチ TRS (リングーチップースリーブ構造) プラグあるいは XLR メスプラグを接続できます。

チャンネル 2 入力には 3.5mm の MEDIA IN (メディア入力) ジャックも搭載されています。

3.5mm TRS 入力ジャックは、携帯音声機器のヘッドホンに接続するために別途用意されたプリアンプに接続されています。チャンネル 2 のゲイン調整を行うと、チャンネル 2 の入力コネクタ全ての信号レベルが変わります。マイクあるいはラインのコンボ入力と 3.5mm 入力を併用する際は、チャンネル 2 のゲイン調整をコンボ入力用に用いた後、モバイル機器を使用してヘッドホン音量を調整してください。

**RBN™112** は単一音源に対応しているため、3.5mm ジャックはステレオ音声をモノラルに変換するのでご注意ください。

機器の電源がオンになっており、GAIN (ゲイン) ノブの音量が大きい状態では、ケーブルをジャックに接続しないでください。標準のシングルエンド 1/4 インチフォンプラグを用いたケーブルでも十分な性能を発揮し、バランス入力回路が多少の干渉を除去できますが、バランス型 TRS1/4 インチフォンプラグあるいは XLR プラグを用いることで、より高度な干渉除去能力と、性能を引き出せます。

干渉の除去が困難な場合は、**RBN™112** 側でバランスケーブルのシールドアース (XLR のピン #1) を浮かせることで問題を軽減できる場合があります。入力信号の変化には常に注意を配り、ケーブルの接続や取外しを行ったり、グラウンドを浮かす前には、必ず GAIN (ゲイン) をゼロに調整してください。

**RBN™112** には高品質の高級ケーブルの使用が推奨されます。こうしたケーブルは概して優れたシールド性能および素材を持ち、長期にわたって高い信頼性を確保します。最良の組み合わせは、**RBN™112** までの距離と比較して必要以上の長さを持たない、シールドされたバランスケーブルとなります。**RBN™112** の入力部にはケーブルに多少の緩みを持たせ、人々がケーブルに躓いたり、スタンドに取付けられた **RBN™112** を引張倒さないように、ケーブルをテープで固定したり、ガード下に這わせることが、通常は推奨されます。

### **ゲイン調整**

**RBN™112** は入力部にゲイン調整機能(6)を持ち、様々なアプリケーションで活用できます。ゲイン調整ノブを時計回りにフル回転させるとゲインは最高となり、MIC/LINE (マイク／ライン) 選択スイッチ(7)をラインに合わせた状態で、スピーカーの定格出力における入力感度は 0.42V RMS となります。**RBN™112** をミキサーから駆動する場合、ゲインを半分程度に調整して入力感度を減らすと良好な効果が得られます。これで、**RBN™112** は通常のパワーアンプに近い挙動を示します。

ミキシングボードにて出力信号のクリップが見られる場合、**RBN™112** の出力をうまく引き出せていないこととなります。信号が **RBN™112** に達する前にクリップすることは、あまり望ましい事態ではありません。ミキサーの出力レベルを落とし、**RBN™112** 上でゲインを上げてください。

**RBN™112** のアンプには DDT™機能が搭載されており、スピーカー前面のバッフルに取付けられた LED インジケータが、DDT™が動作中であることを示します。リアパネルの LCD 画面(12)にも表示がなされ、DDT システムが動作中は「DDT」の文字が浮かび上がります。

音声が大幅に圧縮されて聞こえる場合、これらのインジケータをチェックしてください。頻繁

に赤色に点滅する場合、ミキサーからの駆動レベル（あるいは RBN™112 のゲイン調整）を減らす必要があります。

サウンドシステムに初めて電源を入れる場合は、上流の電子機器全てにまず電源を入れ、続いてゲインを最小限に抑えた（ノブを反時計方向に回し切った）RBN™112 の電源を入れてください。ミキサーの出力レベルを全てゼロにした状態からレベルチェックを開始し、RBN™112 のゲイン調整ノブを所望の位置まで回して（1/3 の位置から開始することを推奨いたします）から、ミキサー出力を少しずつ上げてください。

RBN™112 のゲインを最高レベルに調整した後に、ミキサーの出力レベルのみを調整する方法は、過剰なノイズの原因となるため、推奨されません。最良の方法は、ミキサーから RBN™112 へのケーブルには高出力の信号を流し、RBN™112 のゲインを必要な量のみ上げ、所望の出力を達成することです。この方法を用いる際は、ミキサー出力がクリップしていないことをまず確かめてください。

### **RBN™112 からの AC 電源の取外し**

電源スイッチ(1)を用いてまず機器の電源をオフにし、続いて AC 電源コードを取り外すことを推奨いたします。これにより電源オフ時の過渡現象がパワーアンプと変換器に与える影響を最小限に留められます。電源スイッチにはオフ時に効果を発揮するアーク消弧コンデンサが取り付けられており、AC 電源のスムーズな遮断が可能です。電源コードの IEC コネクタが完全に遮断される前に、コードの揺れなどを通じて断続的な接続が発生する可能性があります。

## **RBN™112 DSP 設定メニュー操作**

16 文字幅が 2 列並ぶ LCD 画面と、プッシュ選択方式のロータリーエンコーダーが本機器のインターフェースを構成します。

ユーザーは、9 バンドのグラフィックイコライザー (GEQ)、出力極性の選択、ベース音強化の選択、信号遅延を処理可能な DSP 機能を設定することが可能です。これらの設定はパワードスピーカーシステムに適用され、場合によっては処理後の出力を調整することもあります。プリセットされた Program EQ (イコライザーのプログラム) 設定メニューの選択を通じて、グラフィックイコライザーと Bass Enhancer (ベースエンハンサー) を調整することも可能です。

### **ユーザーインターフェース :**

エンコーダーを回すと、トップレベルメニューの画面が表示されます。これらの画面表示には Input Level (入力レベル) メーター、機器の構成内容、現在のユーザー設定など、現時点の設定情報が表示されます。トップレベルの画面でエンコーダーを押し込むと、関連する選択画面が表示されます。構成画面は、スピーカーを所望のアプリケーション向けに調整する際に重要な役割を果たします。構成画面は、スピーカーの電源が入れられた際の初期画面に続いて表示されます。構成画面が選択されないまま 5 分間過ぎると、Input Level (入力レベル) 画面が表示されます。ノブを回せば、いつでもこの画面を選択できます。構成画面を通じて、RBN™112 を最適な動作状態に調整することができます。2-3 の質問に答えるだけでプロセッサーが構成を行い、適切な構成内容が表示されます。完了後、メインメニューが表示されます。

LCD 画面のバックライトは 5 分間操作が行われないうちに消えますが、エンコーダーを回すと再び点灯します。バックライトが自動消灯すると、画面表示は Input Level (入力レベル) 画面に戻ります。これは、LCD バックライトを再点灯させる際に誤って構成内容を変更する事態を防ぐためです。

メインメニュー内の画面は次の通りです :

Configure? (構成しますか?)

Input Level (入力レベル)

Program EQ (Presets) (イコライザーのプログラム—プリセット選択)

Bass Enhancement (ベース音強化)

Delay (遅延)

Graphic EQ (グラフィックイコライザー)

Polarity (極性)

Power amp meters Low and High (ローおよびハイのパワーアンプメーター)

Power amp Temperature (パワーアンプ温度)

Horn LED On/Off (ホーン LED オン/オフ)

Auto power Off (自動電源オフ)

Security Lock (セキュリティロック)

メイン画面 :

入力レベルメーター : 現在の入力信号レベルを表示します。

DDT 機能が使用されている場合、画面の右側に「DDT」の文字が明確に表示されます。

Configure? (構成しますか?)

**Push Select** (プッシュ選択) この画面は現在の状況を表示しており、直接編集することはできません。

構成メニューに入ると、システムを適切に設定して接続するための指示が出現します。

**Configure?** (構成しますか?) を選択した後に出現する画面

**Use RBN112 with Subwoofer?** (RBN112 をサブウーファーと共に使用していますか?) **Yes or No** (はい、またはいいえ)

サブウーファーが存在せず、**No** (いいえ) を選択すると、位置画面に移動します

**No** (いいえ) がデフォルトで選択されています。

**Yes** (はい) を選択すると：サブウーファー選択画面

**Subwoofer used:** (使用中のサブウーファー：)

**Selections**

(選択可能な機器)

**RBN Subwoofer**

(RBM サブウーファー)

**PVXp Sub 100 Hz** (PVXp 100Hz サブウーファー)

**PVXp Sub 110 Hz** (PVXp 100Hz サブウーファー)

**PVXp Sub 120 Hz** (PVXp 100Hz サブウーファー)

**Other Sub 100 Hz** (その他の 100Hz サブウーファー)

**Other Sub 110 Hz** (その他の 100Hz サブウーファー)

**Other Sub 120 Hz** (その他の 100Hz サブウーファー)

注意：選択範囲を全て表示させるには、ロータリーノブを用いて画面を下方にスクロールさせてください。

**If RBN Subwoofer**

**Connect Mixer to**

**RBN215 Sub Input**

**RBN** サブウーファーが選択された場合：

(ミキサー出力を **RBN215** サブウーファー入力へ接続)

**Connect Sub Proc**

**Out to 112 Input**

**RBN112 Proc Out is Muted**

(サブウーファーの処理済出力を **RBN112** の入力へ接続

**RBN112** の処理済出力はミュートされます)

ミキサー出力 (音源) がサブウーファーに接続されている場合、システム調整は全て **RBN Sub DSP** (**RBN** サブウーファーDSP) モジュールを通じて行われます。**9** バンド **GEQ** (グラフィックイコライザー) など、ユーザーが **DSP** 処理内容を選択した場合、信号遅延機能はバイパスされ、処理済出力はミュートされます。**Program EQ** (イコライザーのプログラムプリセット選択)、**GEQ** (グラフィックイコライザー)、遅延画面の内容は全て変更されます。サブウーファーがクロスオーバー機能を実行するため、**RBN™112** ウーファーのハイパスフィルターはフルレンジ設定のまま置かれます。

**If PVXp Subwoofer**



Connect Mixer to  
RBN112 Sub Input

PVX<sub>p</sub> サブウーファーが選択された場合：  
(ミキサー出力を RBN215 サブウーファー入力へ接続)

Connect 112 Proc  
Out to PVX<sub>p</sub> In

(RBN112 の処理済出力を PVX<sub>p</sub> の入力へ接続)

Set PVX<sub>p</sub> x-over to 180 Hz

(PVX<sub>p</sub> のクロスオーバー周波数を 180Hz に設定)

If Other Subwoofer

Connect Mixer to  
RBN112 Sub Input

その他のサブウーファーが選択された場合：  
(ミキサー出力を RBN112 入力へ接続)

Connect 112 Proc  
Out to PVX<sub>p</sub> In

(RBN112 の処理済出力を PVX<sub>p</sub> の入力へ接続)

PVX<sub>p</sub> あるいは「その他」のサブウーファーが接続された場合、**Program EQ** (イコライザーのプログラムプリセット選択)、**GEQ** (グラフィックイコライザー)、遅延機能の画面は通常通りに機能します。**Processed** (処理済) 出力は、処理済出力信号をサブウーファーへ送ります。指定された周波数にてサブウーファーからの処理済出力とクロスオーバーさせるため、**RBN™112** ウーファーのハイパスフィルターが持ち上げられます。

**RBN 112 Location:** (RBN112 の位置：) (構成画面のサブメニュー)

境界表面などの条件に対処するため、この設定を行うとウーファー専用の処理内容に影響が出る場合があります。

**Pole Mount** (ポールマウント—デフォルト設定)

**Flown** (フライング)

**Floor Monitor** (フロアモニター)

**Program EQ:** (イコライザーのプログラム) 現在のイコライザー選択内容を表示します (初めて電源を投入すると、**EDM** プリセットがデフォルトで選択されています)

(プリセット内容) **EDM**、**Voice** (ボイス)、**Rock** (ロック)、**DJ** .....

イコライザーのプログラム選択の効果は、**Graphic Equalizer** (グラフィックイコライザー) と **Bass enhancer** (ベース音エンハンサー) に適用されます。

**GEQ** (グラフィックイコライザー) がユーザー設定された場合、「**Custom** (カスタマイズ)」の文字が表示されます。

**RBN™112** の電源を投入した際、カスタマイズを含め、前回使用されたプリセット内容が選択されます。

注意：入力信号が **RBN** サブウーファーのハイパスフィルター処理済出力である場合、以下の内容が画面表示されます：

「**EQ Bypassed**」(イコライザーはバイパスされました)

「**Use EQ in RBN Sub**」(RBN サブウーファー内のイコライザーを使用してください)

**Bass Enhancement:** (ベース音強化 : ) **Off** (オフ) または **On** (オン)。

**Delay:** (遅延 : ) **Current delay time** (現在の遅延時間設定)

画面上で **0~150ms** の間で調整します。 **Feet** (フィート) あるいは **Meters** (メートル) を単位として選ぶことも可能です。

注意 : 入力ソースが **RBN** サブウーファーの場合、**RBN™112** の画面には次のように表示されます :

「**Delay Bypassed**」 (遅延はバイパスされました)

「**Set DLY in Sub**」 (遅延をサブウーファーにて設定してください)

**Graphic EQ:** (グラフィックイコライザー : ) 現在の設定内容、**ISO** オクターブ中心周波数(**63Hz~16kHz**)において **9** バンド **+/- 12 dB**

注意 : 入力ソースが **RBN** サブウーファーの場合、**RBN™112** の画面には次のように表示されます :

「**EQ Bypassed**」 (イコライザーはバイパスされました)

「**Use EQ in RBN Sub**」 (**RBN** サブウーファー内のイコライザーを使用してください)

エンコーダーを押して設定画面に入り、**GEQ** を調整します。エンコーダーを回すと調整対象の周波数帯域が選択されます。エンコーダーを押すと、その帯域を調整できます。エンコーダーを再度押すと、帯域選択に戻ります。メインメニューを退出する場合は、エンコーダーを **16kHz** 帯域を超えて「**X**」マークまで回すと、**Exit** (退出) の文字が出現します。エンコーダーを押してメニューを離れます。

**RBN™112 Polarity:** (**RBN™112** 極性 : )

**Normal** (通常—デフォルトで選択)

**Inverted** (反転)

**Power amp Level meter display:** (パワーアンプレベルメーター表示 : )

2 つのパワーアンプへの入力信号が、水平の **VU** メーター形式にて表示されます。各チャンネルの **Limit** (リミット) 状態も表示されます。

**Temperature:** (温度 : ) アンプの温度が監視され、安全な動作範囲に収まっている間は表示されます。温度が高すぎる場合、保護モードに入ったことがこの画面とメインの **Input Level** (入力レベル) 画面に表示されます。

**Front Horn LED:** (フロントホーン LED : ) **Set LED operation to:** (LED 動作の選択 : ) **Off** (オフ) あるいは **Power ON** (電源オン)。電源オン時の動作が選択されると、アンプに電源が投入されている間は **LED** が点灯します。

**Auto power off:** (自動電源オフ : ) **Disable** (無効)、**15、30、60 minute delay** (15/30/60 分間の待機時間)

**Security Lock:** (セキュリティロック : ) 4 桁のセキュリティロックを設定すると、全てのパラメーターが編集できなくなります。ロックされた場合、編集を一時的に行う際にはアクセスコードの入力が要求されます。**5** 分間編集が行われない場合、ロックが自動的に再度かかります。

### 出力信号無し

まず、AC 電源が機器に供給されて、電源がオンになっていることを確認してください。パワーアンプモジュールの LCD 画面のバックライトが点灯していることを確認してください。

そうでない場合は、電源オン/オフスイッチ(1)が ON になっており、IEC 電源コードの接続部(3)を検査して、コードが最後まで挿入され、固定されていることを確認してください。AC 電源コードが有効な AC 電源コンセントに接続されていることを確認してください。

最後に、ヒューズ(2)を検査してください。(マニュアル内にてリアパネル：ヒューズの安全指示を参照してください。)

機器に AC 電源が入力されていることが確認されたならば、RBN™112 に信号が入力されているかどうかを確かめてください。スピーカーの入力に接続されているケーブルを一時的に取外し、信号再生可能な他の機器（パワーアンプとスピーカーなど）に接続してください。この結果信号が再生される場合、RBN™112 の再生レベル調整機能を全てチェックし、十分なレベル（1/3 あるいは半分）まで確実に上げてください。

RBN™112 が直射日光や過度の熱に晒されていた場合、内蔵の熱保護機能が作動した可能性があります。その場合、RBN™112 の電源をオフにし、十分な時間、機器を冷却してください。

それでも出力が見られない場合は、Peavey の認定小売店または Peavey International Service Center（Peavey 国際サービスセンター）までご連絡ください。

### ハムノイズまたはバズノイズ

RBN™112 がハムノイズあるいはバズノイズを発している場合、AC コンセントが原因の可能性あります。RBN™112 を別の AC コンセントに接続してみてください。時折、ミキサーと RBN™112 に別々の電源回路（ブレーカー）を用いると、ハムノイズが発生する場合があります。可能であれば、ミキサーとパワードスピーカーの両方を同じコンセントブロック（ブレーカー）に接続することが推奨されます。

RBN™112 の入力にはシールドケーブルを必ず用いてください。シールドケーブルの代わりに 1/4 インチプラグのスピーカーケーブルを入力ケーブルとして用いると、ハムノイズやバズノイズが乗りやすくなります。

ハムノイズはグラウンドループに起因している可能性があり、RBN™112 側でバランスケーブルのシールドアース（ピン#1）を浮かせることで問題を軽減できる場合があります。入力信号の変更は注意深く行う必要があります。ケーブルを抜き差ししたり、スピーカー側でシールドアースを浮かせる前に、音量をいっばいに下げてください。

調光器は、必ず RBN™112、ミキサー、あるいはその他の入力ソース機器とは別の電源回路を使用してください。調光器を使用している場合は、光量を最大限に上げるか下げるかして、ハムノイズを除去もしくは削減してみてください。これは典型的な AC 配線/調光干渉の問題であり、RBN™112 の設計不良ではありません。

AC プラグの第三の線（アースピン）は絶対に破損させたり、取り去らないでください。安全上の問題の原因となります。

## 歪んだ、あるいは不明瞭な再生音

まず、ミキサー（入力ソース）がクリップしたり、出力レベルが過大になっていないかどうか確認してください。RBN™112 のゲイン調整値(6)が低すぎないかどうか、確認してください。RBN™112 リアパネルの入力部に、入力信号のジャックが確実に差し込まれているかどうか確認してください。RBN™112 の入力ジャックにパワーアンプからの信号が接続されないようにしてください。機器の AC 電源供給用に延長コードを用いる場合は、コードの電流定格に余裕があることを確認し、他の機器への電源供給には使用しないでください。

RBN™112 はスピーカーの出力を滑らかにし、自然な再生音をよりよく実現するためのイコライザーを内蔵しています。バスブーストが過大に設定されていたり、外部機器にて高周波ブーストが加えられている場合、RBN™112 は高 SPL にて通常よりも早く、過負荷状態に達します。外部イコライジング（ミキサー、ラックなど）の量を減らして、歪みが除去されるかどうか検査してください。

外部機器によるバスブーストや高周波ブーストが加えられていないにも関わらず、バスブースト（ブーミー、バスのクリップ）、および／または高音ブースト（甲高さ、シズル、音の硬さ）が過大に聞こえる場合、LCD 画面の DSP メニュー内、Set-Up Wizard（設定ウィザード）における設定内容が間違っている可能性があります。画面にて適切な設定内容を選択してください。

ミキサーからの出力を RBN サブウーファーに接続し、サブウーファーから RBN™112 に接続している場合、RBN™112 の Set-Up Wizard（設定ウィザード）において USE WITH RBN SUB（RBN サブウーファーと併用）メニューを選択する必要があります。

Set-Up Wizard（設定ウィザード）メニューにて正しい項目が選択されているにも関わらず、ブースト量が大きすぎる場合、Acoustic（Flat）（アコースティックフラット）プリセットなどの、ブースト量の少ないプリセットを選択し、Tone（トーン）調整は最大限に上げないようにしてください。

最後に、たとえ RBN™112 が強力な高出力機器であるとはいえ、最終的には出力の限界を迎えます。その際、音量や到達範囲を十分に確保するには、外部のパワード機器（あるいはサブウーファー）が必要になる場合があります。その際は、ミキサー出力の音量を少し下げ、音声が明瞭になるかどうか検査してください。ここに記載された注意事項を全てチェックし、安全に確認可能な他の事項を全て検査した後に、スピーカーシステムにまだ問題が見られる場合は、状況を詳細に記して、Peavey の小売店へ助言を求めてください。

## 手入れとメンテナンス

RBN™112 は堅牢で耐久性のある製品であり、適切な手入れを行えば長期間にわたって安定した使用が可能です。常識を用い、安全上の注意事項をよく読んで、危険な操作環境を避けてください。

機器の修理を行う前に、必ず AC 電源を外してください。修理は全て、認定されたサービス技術者に依頼してください。

## 日光／熱源への暴露

直射日光に長時間晒すことは避けてください。機器が過熱し、熱保護機能が作動してシャットダウンします。

過度な高温での動作環境もまた、熱保護によるシャットダウンを招きます。

極端な高温または低温、あるいは非常に湿度の高い環境にて保管することは避けてください。機器の使用前は、必ず室温に慣らしてください。

## 清掃

RBN™112 の電源コードが接続されていたり、電源がオンの状態では、絶対に清掃を行わないでください。機器を AC 電源から外した後、乾いた布を用いて泥やその他の汚れを拭き取ってください。強力な溶剤は RBN™112 のキャビネットを損傷させますので、絶対に使用しないでください。RBN™112 の内部にはいかなる量の液体もこぼさないでください。

## 表面の仕上げ

全体の仕上げを強化したり、保護用被膜を形成する場合は、グローブをはめた状態で、Armor-All®保護剤や同様なプラスチック製の仕上げ保護剤をプラスチックキャビネットの表面のみに塗装してください。こうした仕上げの後にはキャビネットが滑りやすくなります。この影響を最小限に留めるために、乾いた糸くずの出ない布を用いて、力を込めて磨いてください。

## ハードウェアの緩み検査

使い始めてから 2-3 週間後、そしてその後も定期的に、RBN™112 のハードウェアを検査して、リアパネルのネジやバッフルとリアキャビネットを接合するネジが緩んでいないかチェックしてください。

機器は大幅な振動に晒されるため、使用に伴いハードウェアに緩みが生じる原因となります。

## 構造仕様および技術仕様

このパワードラウドスピーカーシステムは 59Hz~20kHz の周波数応答を持ちます。歪みが聞こえない範囲でのピーク SPL は、音楽を入力ソースとした状態でフル出力まで駆動し、1m の距離から測定した場合、130dB に達します。このシステムは Peavey® 12 インチネオジウム磁石デュアルボイスコイルを搭載した Scorpion®ウーファーと、真のリボンドライバーツイーター、Peavey RD™2.6 を内蔵しています。公称指向角度は水平面にて 110 度、垂直面にて 30 度です。

バイアンプのパワードラウドスピーカーシステムは 2 つのミックス入力チャンネルを搭載しており、XLR メスプラグと 1/4 インチ TRS フォンジャックのコンボジャックを採用した、ミディアムのインピーダンスを持つ入力コネクタをリアパネルに備えます。チャンネル 2 は 3.5mm 入力ジャックも搭載しています。

XLR オスジャックを採用した、ダイレクトスルー（出力）コネクタが利用可能です。

このジャックの出力は、チャンネル 1 の入力信号のみか、チャンネル 1 と 2 のミックス信号のどちらかを選択できます。

システムパワーアンプはフィルタリング無しの状態にて 20Hz~20kHz の周波数応答を持ち、定格出力にいたるまでの変動は+1/-3dB 未満の範囲です。ハムおよびノイズレベルは定格出力未満にて 90dB 以上、THD（全高調波歪み）および IMD（混変調歪）は通常 0.1%未満です。

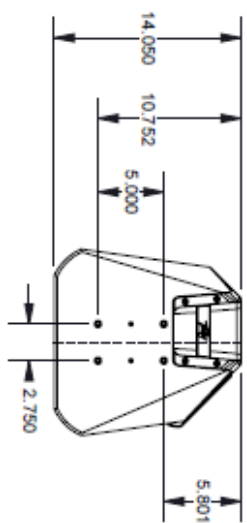
ウーファーアンプは 4Ω の公称負荷に対して連続で 500W の出力、ツイーターアンプは 8Ω の公称負荷に対して連続で 250W の出力が可能であり、どちらも独立した信号圧縮機能を備えています。

入力信号は、2.0kHz にてクロスオーバーが設定された、4 次のスロープを持つリンクウィッツライリーのラインレベルフィルターにより電氣的に高周波数成分と低周波数成分に分割されます。低周波数成分はバスブースト、サブソニックフィルター、全体の応答シェーピングを提供するよう処理され、高周波数成分は応答シェーピング用にイコライザーを通過します。

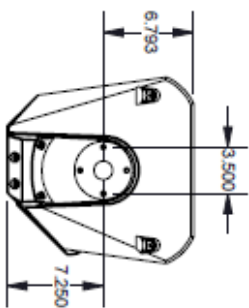
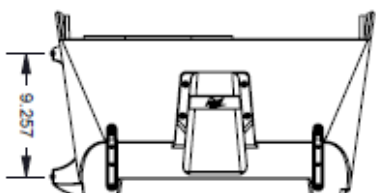
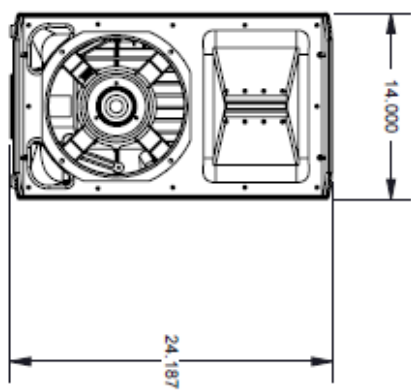
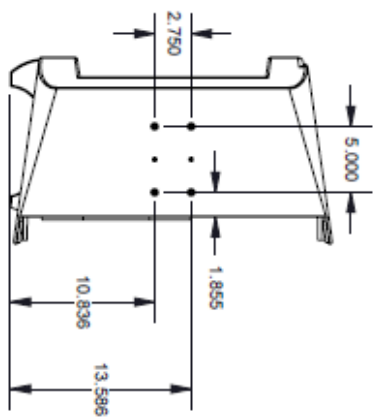
エンクロージャは UL 燃焼性規格に準拠し、射出成型されたポリプロピレン素材で構成されており、内部からリブを補強しています。ウーファー付近の右側面、およびキャビネットの背面上部付近にハンドグリップが備えられています。

粉末被膜を施したフルサイズの金属グリルがホーンとウーファーの保護用に取り付けられています。キャビネットはスピーカースタンドの利用に備えてポールマウントを内蔵し、フロアスタンド用途に十分な高さを持つ4つのゴム脚を備えています。

外形寸法は次の通りです：高さ x 幅 x 奥行 = 61.9cm x 35.7cm x 36.2cm、重量は 17.7kg です。消費電力は次の通りです：公称 200W、120VAC、50/60Hz（国内）、220-240VAC、50/60Hz（輸出）。このラウドスピーカーシステムの名称は Peavey® RBN™112 です。



上部取付け位置



下部取付け位置



## 技術仕様

周波数応答 : 59Hz~20kHz

低周波数限界 (-3dB 点) : 59Hz

使用可能な低周波数限界 (-10dB 点) : 52 Hz

内蔵パワーアンプ (120VAC 電源) :

ウーファー : 1000W ピーク出力が利用可能

連続出力 : 1%未満の歪みにて 500W

ツイーター : 500W ピーク出力が利用可能

連続出力 : 1%未満の歪みにて 250W

公称感度 (1W@1M、無エコー環境にてスイープサイン波使用) 99 dB (平均)

最大音圧レベル : 音楽再生時に 132 dB ピーク

公称指向角度 : 水平方向 110 度、垂直方向 30 度

変換器の構成要素 : 12 インチネオジウムデュアルボイスコイルを搭載した **Scorpion®**ウーファー : モデル **SDC1288**、およびアルミ複合材を使用した 4.75 インチ長のリボンツイーター、**RD™2.6**

ボックスチューニング周波数 (Fbox) : 60 Hz

電気音響クロスオーバー周波数 : 2,000 Hz

クロスオーバースロープ : ローパス : 24 dB/oct (4 次)、ハイパス : 24dB/oct (4 次)、ドライバーイコライザー

入力コネクタ : バランス入力およびアンバランス入力に対応した **XLR** メスプラグおよび 1/4 インチフォンジャックのコンボ入力 **x2**、**3.5mm** ステレオメディアジャック **x1**。

出力コネクタ : **XLR** 出力 **x2**、うち 1 つはチャンネル **A** のみか、チャンネル **A/B** のミックスを電氣的に選択可能なフルレンジスルー出力。もう一方の **XLR** 出力はハイパス出力。

調整方式 : チャンネル **1** および **2** のゲイン調整ノブ。チャンネル **1** および **2** のマイク/ラインゲイン選択押しボタン。

ステータス表示 : 青色のリボンレンズインジケータ点灯は電源オンを表示、点灯効果はユーザー設定によりオフにすることも可能。フロントバッフルの赤色 **LED** 点灯は **DDT** 機能が作動していることを示します。

レベル入力モードにおけるリアパネルの **LCD** 画面には、右側に「**DDT**」の文字が点滅して **DDT** 機能の作動を示します。**LCD** の左側にはバーグラフが表示され、信号レベルを示します。

電気クロスオーバー : **DSP** を利用しており、**LCD** 画面とロータリーエンコーダーを使用したイコライザープリセットおよびグラフィックイコライザーの選択機能を持ちます。クロスオーバー周波数は **2.0kHz** に設定されています。ローパススロープ : **24dB/oct**、ハイパススロープ : **24dB/oct**

**DSP** セクション仕様 :

レイテンシー : 約 **2.7ms**

**ADC/DAC** サンプリング周波数 : **96 kHz**

ビット長 ADC/DAC 用に 24 ビット、DSP 演算用に 32 ビット。

エンクロージャ素材および仕上げ：

内部にリブ補強支柱を持ち、射出成型されて仕上げを施されたプラスチック素材です。成形素材および金属グリルは黒色です。グリルは外観をエレガントに整えるために布地で裏打ちされています。

取付け：

サブウーファーまたはスピーカースタンドは内蔵された 35mm 径のポールマウント経由で結合、フライングは VM™70（上部および下部に各 4 つの M6 挿入ポイント）を接続、フロアまたはステージ利用の場合はゴム脚を使用します。

寸法：

H x W x D

24.38" X 14.07" X 14.25"

61.9cm x 35.7cm x 36.2cm

重量：

39 lbs.17.7 kg

電気仕様およびアンプ仕様：

電気入力インピーダンス（公称）：

バランス入力：ラインレベル感度が選択された際に 10k $\Omega$ 。

アンバランス入力：ラインレベル感度が選択された際に 5k $\Omega$ 。

マイクスイッチ感度増幅：26dB

フル出力時の入力感度（フル CW レベル）：0.42V RMS

入力過負荷点（スイッチ位置はライン）：+14dBV

超低周波数フィルター保護：36dB/oct ロールオフ

アンプの公称周波数応答：+0、-1 dB、10 Hz～30 kHz

ハムおよびノイズ：定格電力以下で 90dB 以上

DDT ダイナミックレンジ：14dB 以上

THD（全高調波歪み）および IM（混変調歪）：通常は 0.1%未満

ダンピングファクター：1000Hz、4 $\Omega$  にて 50 以上

Peavey® RBN™112 システムの消費電力（国内向け）：

公称 200W、120VAC、60Hz

ヒューズ種類：

120VAC 用：国際ヒューズ分類：T10AH 250V。米国においては、GDC、GMC、215、218、477 の各カートリッジ、5x20mm サイズ、10A、250V 定格の時間遅延ヒューズを用いることが可能です。

220-240VAC 用：国際ヒューズ分類：T5AHL 250V。5A、250V 定格、5x20mm サイズのカートリッジ式時間遅延ヒューズです。

仕様は予告なしに変更される場合があります。



[www.peavey.com](http://www.peavey.com)

Warranty registration and information for U.S. customers available online  
at [www.peavey.com/warranty](http://www.peavey.com/warranty) or use the QR tag below



Features and specifications subject to change without notice.

Peavey Electronics Corporation      5022 Hartley Peavey Drive      Meridian, MS 39305  
(601) 483-5365      FAX (601) 486-1278



Logo referenced in Directive 2002/96/EC  
Annex IV(OJ(L)37/38,13.02.03 and defined  
in EN 50419: 2005



The bar is the symbol for marking of new  
waste and is applied only to equipment  
manufactured after 13 August 2005